

**政治・経済**

**【解答】**

I	問 1		問 2		問 3		問 4	
	解答 1	解答 2	解答 3	解答 4	解答 5	解答 6	解答 7	解答 8
	イ	エ	エ	カ	イ	エ	カ	イ
II	解答 A		解答 B		解答 C		解答 D	
	違憲立法審査 (違憲法令審査)		憲法の番人		住民基本台帳		マイナンバー	
	解答 E		解答 F		解答 G		解答 H	
	国民総生産		国内総生産		合同会社		配当	
III	問 1	住民自治の実現を図るために、重要事項について住民が直接意思を反映させる権利のこと。条例の制定・改廃、議会の解散、議員・首長などの解職要求などがある。代表民主制の地方自治制度のなかに直接民主制が導入されたものである。(107 字)						
	問 2	2008 年、アメリカでは、サブプライム・ローン問題が深まっていく中で、リーマン・ショックが起こり、株価の急落、金融市場の収縮によって、世界中で、企業の資金調達が難しくなり、多くの企業が倒産し、失業者が大量に発生した。(108 字)						

## 【学習アドバイス】

本学の入試は、選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。本年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問Ⅰ～Ⅲのうち、大問Ⅰが空欄補充問題（記号選択式8問）、大問Ⅱも空欄補充問題（語句記述式8問）、大問Ⅲが100字程度の説明論述式問題（2問）となっている。

全体として、政治・経済の各分野にわたる基礎的・基本的な知識と理解を試す問題で構成されており、標準的なレベルの高等学校における政治・経済の履修範囲内での出題となっている。

以下、大問Ⅰ～Ⅲについて内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰの空欄補充問題は、各分野をテーマとする問題文が4つ用意されている。その問題文にそれぞれ2つの空欄があり、6つの選択肢から2つの正答となる選択肢を選び出す形式を採っている。問題文の内容は、問1：日本の政治（政党政治、2問）、問2：国際政治（国際法、2問）、問3：日本の経済（社会保障、2問）、問4：国際経済（多国籍企業、2問）となっている。問1、問3は現代の日本の政治・経済の法律や制度を問う問題となっており、単語の丸暗記ではなく法律や制度の成立に関わる歴史的な視点が必要とされている。また、現代の政治・経済に関わるニュースなどで耳にする機会もある内容が問われているため、日頃からニュースに関心を持っていればさほど難しくはないだろう。問2は国際法に関する基礎的な問題である。問4は多国籍企業に関する問題であり、なぜ多国籍企業という形態がとられるのか、どのように利益を出すのかなどの知識が問われているため、単に教科書のみでの学習ではなく、実際の経済に結びつけて学習することが望まれる。

大問Ⅱの語句記述式の空欄補充問題は、各分野をテーマとする問題文が4つ用意されており、その問題文にそれぞれ2つの空欄がある。(1)は裁判所、(2)は住民基本台帳、(3)は国民所得、(4)は会社企業に関する分野から出題されている。いずれも基本的な用語を正しく理解し、正しく記述できるかどうかを問う問題である。これに対しては、教科書だけでなく用語集や資料集などを用いて、単なる単語の暗記ではなく理解する学習を心がければ、十分正答することは可能である。

大問Ⅲの問1は「日本の地方自治における直接請求権」を、問2は「サブプライム・ローン問題が世界経済に与えた影響」をそれぞれ100字程度で説明する問題である。出題形式は、100字程度の「記述問題」であるため、受験生にとっては難しい問題と思えるかもしれないが、問1、問2ともに政治・経済の重要語句であるため、教科書や用語集で基本的な学習をしっかりと積んできた受験生にとっては、十分に得点可能な問題である。ただし、説明する文章を書くのが苦手な受験生も多く、最も点差が開く問題だったと思われる。

受験対策としては、教科書中心の学習を心がけ、資料集の図表などにより全体像や様々な理論の構造を理解し、用語集を用いて細かい用語を理解・暗記するという手順で学習するとよい。その上で大学入試過去問題集や予想問題集などで実践問題演習を積み重ねていけば、入試突破に十分な学力を身につけられるだろう。大問Ⅲのような説明論述式の問題に対しては、ノートに重要語句の定義を100字程度の短文で要約したり、政治・経済の思想史の流れ、法整備の流れなどテーマを決めてその時代背景とともにまとめたりするなどの練習を行うとよいだろう。また、普段から政治・経済の課題を意識してニュースを見たり新聞を読んだりして、それを同様に要約する作業を行うようにしよう。それにより、教科書の中の事項を身近な問題として捉えられるようになるため、単純な暗記を行うよりも理解が深まり、より効率的に学習できる。基本的な用語の理解が重要になってくる本学の入試では、このような地道な作業を積み重ねることで、必ずやよい結果が得られるだろう。